

I-7 曲直瀬養安院文書の研究 (二) ——文書の概要 (上)

小曾戸 洋・友部和弘・町泉寿郎

北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部

曲直瀬養安院家の歴史は今日まで四百余年の長きにわたる。江戸時代を通じて蓄積された家伝資料のうち、書籍類(養安院蔵書)はすでに散じたが(善本類の多くは内閣文庫や宮内庁書陵部に現伝)、多数の古文書類がいまなお未裔の曲直瀬暢夫氏のもとに伝えられている。

平成十六年七月十九日に同家を訪問した演者らは、その比類のない豊富な資料群に瞠目した。ただ惜しいことにそれらは昭和三十四年の伊勢湾台風、平成十二年九月十一日の東海豪雨などたび重なる水害によって損傷を蒙り、披見もおぼつかないものが少なくない。演者らは同家の許可を乞い、数度にわたりこれら在北里医史学研究部に搬出。鋭意力を尽くして修復作業を

続行し、平成十六年度末をもって全作業を完了した。

以下、これら曲直瀬養安院文書の概要を報告する。(ほとんどの資料は平成十三年、東浦町郷土資料館によって整理番号が付され、ひとまず目録化されている。今回の分類は整理の都合上、基本的にそれに従ったが、修復過程で新出した資料も少なくない。)

一、由緒・事跡関係

- ① 『越智姓河野一柳氏世系之図』一巻
- ② 「後陽成院繪旨」一紙、慶長五年四月二十六日(正琳)

- ③ 「口宣案」七点各一紙(文禄元年十二月二十八日 正琳法印、慶長十七年八月十一日正円法眼、元和四年二月十五日玄理法橋、寛永六年正月二十二日玄理法眼、寛永十八年十二月二十九日玄理法印、元禄元年十二月二十七日正球〔正璿〕法印)
- ④ 「知行割」八点各包紙共(天和二年、元禄元年、同四年、同六年、同九年、同十三年、同十四年、同十七年)

- ⑤ 「系譜・先祖書」一冊、寛政十一年
- ⑥ 「由緒書」一巻
- ⑦ 「親類書」一冊(正健)
- ⑧ 「先祖書」一冊、弘化三年
- ⑨ 「先祖書」一冊、弘化三年
- ⑩ 「曲直瀬家族譜」一冊(明治)
- ⑪ 「養安院(歴代事跡書状控)」一巻、寛永十九年八月(玄理↓太田備中守)
- ⑫ 「養安院法印正救(事跡書付)」五点、三巻
- ⑬ 「歴代養安院書付(法眼法印仰付)」一〇点
- ⑭ 「歴代養安院事跡(法眼法印仰付他)」五点
- ⑮ 「正慶・玄朔・玄鑑・玄淵事跡」一綴(明治)
- ⑯ 「正貞改名願控」一綴、天保十四年
- ⑰ 「海岸防禦の心得」一巻
- ⑱ 「壬生城下古賀志村道法絵図」一紙
- ⑲ 「養安院正琳先生寿像賛口義」「養安院正琳先生伝」合一冊
- ⑳ 「懷中雜書」一冊
- ㉑ 「藥方覚書」一冊
- ㉒ 「処方書」五点及断簡数紙(栗本瑞見「兔腦催生丹藥方書」写、池田瑞仙「疱瘡食物考」天保十一年刊ほか)
- ㉓ 「本草彙言」一冊(清順治二年(一六四四)刊本、序目・絵図のみ、「養安院蔵書」印)
- ㉔ 「道三丸散重宝記」一冊(天明元年刊)
- ㉕ 「皇和魚譜」一冊(栗本丹洲著、天保九年刊本、「曲直瀬蔵書記」印)
- ① 「養安院家人門録」一冊(大、墨付四六丁)、天和三年定書、書継いで慶応元年に至る。

二、医学関係